opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 74

聖ホセマリアは、第二バチカン公会議後の教会の混乱を見て非常に苦しみます。年齢により体が弱っていずイのよっため、オプス・ボリそしもたちのために、祈りそし働き続けます。

2025/04/02

過去の記事はこちらから

1962年から65年にかけて開かれた第二バチカン公会議は、カトリック教

会の現代化を目指しました。それは 急速に変化する現代社会に教会が効 果的に教えを伝えることができるた めです。教会は神がイエス・キリス トを通じて与えられた啓示(「信仰 の遺産 | と呼びます)を忠実に伝え ることが使命です。その啓示の内容 は変わりませんが、その伝え方は場 所と時代によって合わせる必要があ ります。しかし、変えて良いものと 良くないものを判別するのは難しい 問題です。教会の内外でこの点につ いての誤解が生じました。これまで の教会のすべてを、「信仰の遺産 | も含めて、検討を加えて必要なら変 えるべきだという主張が現れ、それ が「第二バチカン公会議の精神」と いう看板を掲げて、教会内にみるみ る広がったのです。この結果、伝統 的な教えや信心業が「古い」という レッテルを貼られて捨てられ、多く の司祭修道者が環俗し、神学校が 空っぽになるという惨状が生じまし た。この混乱は単に思想上のものだ

けではなく、人の生活をも狂わせ、 果ては永遠の救いも危うくします。

カトリックの信仰によれば、教会は 生身の人間で構成されますが、キリ ストの神秘体です。また教会は信者 を生み育てることから「母なる教 会」とも言われます。この信仰を強 く持ち、また教会の混乱で永遠の滅 びに陥るかも知れない人のことを思 い、聖ホセマリアは極度に苦しみま した。まず自ら祈り、周囲にも祈り を頼みました。聖母の取り次ぎを願 うために、あちこちにある聖母マリ アの教会に巡礼し、1970年には大西 洋をわたってメキシコにまで飛びま した。1972年にはイベリア半島の主 要都市を周り、大勢の人たちに直接 話しかけました。しかし、状況は良 くなるどころかひどくなっていきま す。それで1973年から翌年にかけて 三通の長い手紙をオプス・デイのメ ンバーに書き送り、注意を喚起して います。メンバーに祈りの大切さを

説き、各自の高慢心、利己主義、無 秩序な欲望などと戦う必要性を強調 しました。

神父は1972年には70歳になりました。人々に話しかけるときは元気をうに見えても、その体は確実にる限いるでいました。「私はここに限いるであるだけだ。天国に行っと効果的にみができるだろう」となります。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/seijosemaria-74/ (2025/12/14)